科目名	専門演習Ⅰ　　Seminar Ⅰ						
科目担当者	明石 真昭　　AKAISHI Masaaki						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　演習］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	本演習では、財産法に関する諸問題を検討します。具体的には、民法判例百選 1･2［第 8 版］等に掲載されている重要判例を素材として、検討を行います。 受講生の人数にもよりますが、数名程度のグループを作り、毎回、指定の判例について予習の勉強会（サブゼミ）を行った上で、演習に出席してもらいます。グループ内の報告担当者の報告を聴いた後、残りの時間を使い、全員で討論しながら検討していきます。なお、前半はこれに必要なガイダンスを行う予定です。 受講生は、単に指定された百選の解説を読んでくるだけにとどまらず、テーマに関する判例や文献を収集して十分に検討するとともに、ゼミ中は積極的に発言しなければなりません。なお、勉強のみならず、受講生間の親睦面にも重点を置いて、本演習を一生に亘る仲間作り、多様・多彩な人脈作りの場としたいと考えています。						
授業の到達目標	①資料を検索、収集できる。 ②資料を読み、課題を検討してレジュメを作成することができる。 ③報告をもとに議論することができる。						

授業計画・内容	1	ガイダンス	16	判例研究 11（物権）
	2	図書館ガイダンス	17	判例研究 12（物権）
	3	基礎演習 1	18	判例研究 13（債権総論）
	4	基礎演習 2	19	判例研究 14（債権総論）
	5	基礎演習 3	20	判例研究 15（債権総論）
	6	判例研究 1（民法総則）	21	判例研究 16（債権総論）
	7	判例研究 2（民法総則）	22	判例研究 17（債権総論）
	8	判例研究 3（民法総則）	23	判例研究 18（債権総論）
	9	判例研究 4（民法総則）	24	判例研究 19（債権各論）
	10	判例研究 5（民法総則）	25	判例研究 20（債権各論）
	11	判例研究 6（民法総則）	26	判例研究 21（債権各論）
	12	判例研究 7（物権）	27	判例研究 22（債権各論）
	13	判例研究 8（物権）	28	判例研究 23（債権各論）
	14	判例研究 9（物権）	29	判例研究 24（債権各論）
	15	判例研究 10（物権）	30	まとめ

授業外学修 (事前学修)	資料を収集し内容を熟読した上で課題を検討し、報告レジュメを作成する（毎週 3 時間程度）。		
授業外学修 (事後学修)	議論した内容を復習する（毎週 1 時間程度）。		
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	演習への取り組みを総合的に評価	100%	①、②、③
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合		
教科書	演習時に指示します。		
参考文献	演習時に指示します。		
その他	演習の募集要項を確認し、応募する際は必ず面接に来てください。		